

住民の視点からみたバス交通のあり方に関する研究

明石工業高等専門学校 専攻科 学生会員 ○増本 裕幸
明石高専 都市システム工学科 正会員 石内 鉄平
明石高専 都市システム工学科 正会員 大橋 健一

1. はじめに

自動車の普及に伴い、人々の移動が公共交通から自動車交通へとシフトした。公共交通は、路線の縮小や撤退が相次ぎ、高齢者や障害者などの交通弱者の移動制約の問題が露見してきた。超高齢社会を見据えると自動車に頼らない交通整備が必要不可欠であり、現在、全国各地で公共交通の利用増進に向けた施策が行われている。その中で、バスは住民生活に密着した重要な交通手段である。

本研究で対象とする兵庫県東播磨地域では、3社の路線バスと3団体のコミュニティバスが運行されており、特に東播磨地域の JR 土山駅は、5つの自治体が複雑に隣接する境界に位置している。本研究では、複数の自治体に跨る JR 土山駅周辺においてアンケート調査を実施して、バス交通サービスの現状の地域差などを住民意識から把握し、バス交通のあり方を検討するものである。

2. バス交通のアンケート調査

明石市・加古川市・神戸市・稲美町・播磨町の5つの自治体に交通サービスする JR 土山駅の駅勢圏を複数のブロックに分け、被験者の自宅を直接訪問してアンケート調査を実施した。その概要を表1に示す。

表1 バス交通調査の概要

調査方法	アンケート調査
調査地	兵庫県 JR土山駅付近
調査日	平成23年11月および12月
調査員	明石工業高等専門学校 学生30名
回答数	520部
調査項目	1. 属性
	年代・性別・住所・職業・居住年数
	所有している乗り物・最寄りバス停までの距離
	2. 関連調査項目
	(1)バスの利用頻度
	(2)バスの利用目的
	(3)バスに対する意識・イメージ
	(4)バスに対する満足度
	(5)バス交通として重要と思うこと
	(6)バス交通に対する要望

3. バス交通に対する住民意識の実態

1) 駅周辺全体の分析結果

図1にバスに対するイメージ、図2にバスの目的別利用頻度を示す。駅周辺住民の全体としては、バスに対して良いイメージを持っており、バス交通の存在を評価している事がわかる。しかし、バスの利用頻度はどの交通目的においても少ない。公共交通に対する本音と建て前が現れているが、図1の「運行本数が少ない」ことや「終発の時間帯が早い」ことなども、利用減に大きく影響しているものと考えられる。

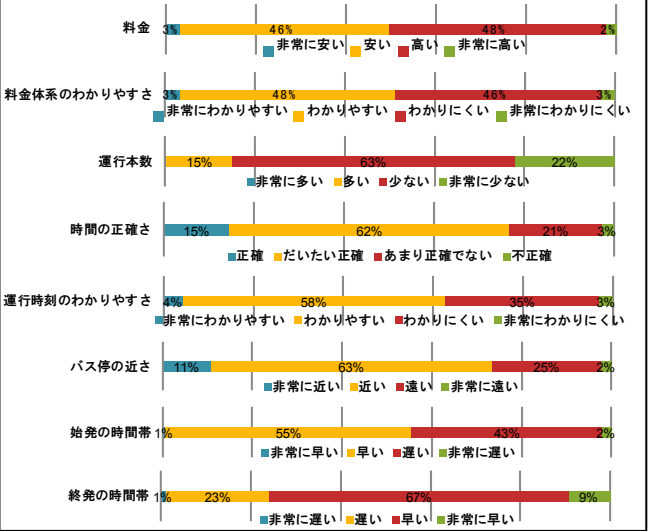


図1 バスに対するイメージ

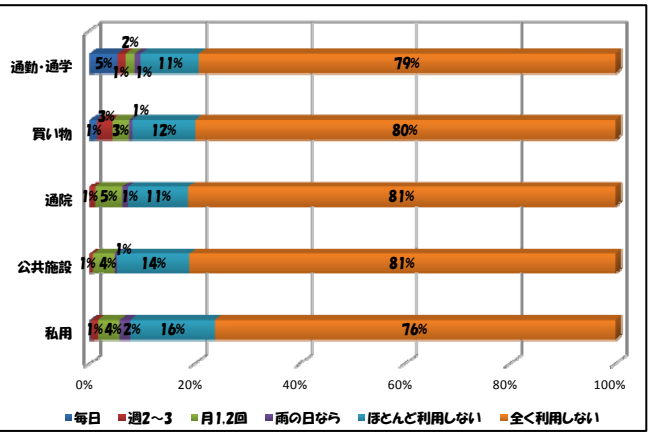


図2 バスの目的別利用頻度

2) 駅周辺の地域別の分析結果

図3に地域別・目的別バスの利用頻度を示す。駅周辺を地域別に集計した結果、土山駅の南東に位置する明石市二見町では、「買い物」、「通院」、「公共施設」など地域に密着した施設でのバス利用が他の地域と比べて多い傾向にある。これは二見町で運行されているコミュニティバスが深く関係しているものと思われる。コミュニティバスは小型バスできめ細かな運行することができるため、公共施設など地域に密着した施設に行くのに効果的であり、交通弱者の移動手段として注目される。

土山駅の北側に位置する稲美町では、「通勤・通学」と「私用」目的のバス利用が他の地域よりも多い。稲美町は土山駅から最も離れた田園地域にあり、商業地や事業所も少なく、「通勤・通学」や「私用」交通の目的地は域外の割合が高い。このような稲美町では、多くの交通が鉄道交通に依存する傾向があり、鉄道へのアクセスとしてバス利用をする人が多くなっていると考えられる。

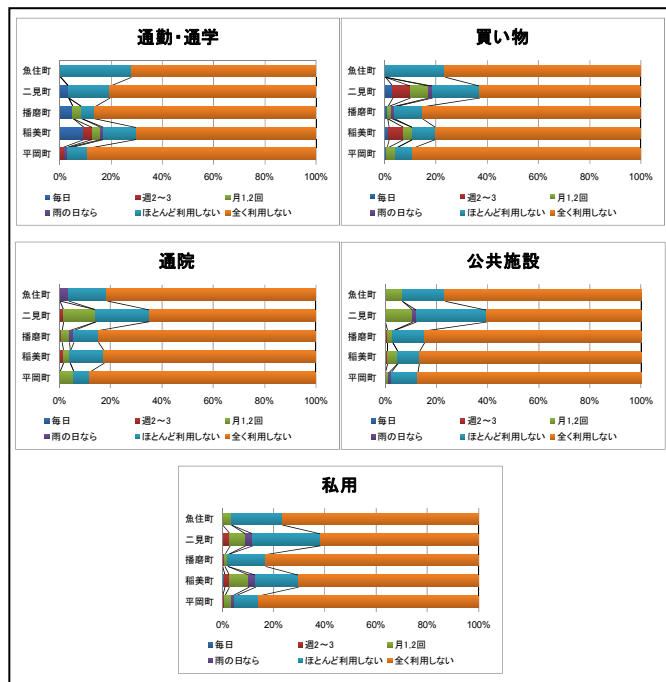


図3 地域別・目的別バスの利用頻度

3) バス利用属性からみた住民意識

図4にバス利用属性からみたバスのイメージを示す。「料金」や「運行本数」はバスを利用する人の方が不満を感じており、利用していくなかでバス交通の欠点を実感している。また、「料金体系のわかりやすさ」や「バス停の近さ」はバスを利用する人の方が良いイメージを持っており、利用していくなかで料金体系に慣れていっていることがわかる。加えて「バス停の近さ」については、バス停位置など、バ

ス運行に関する情報を把握していないことも、利用しない人のイメージ低下に繋がったと考えられる。

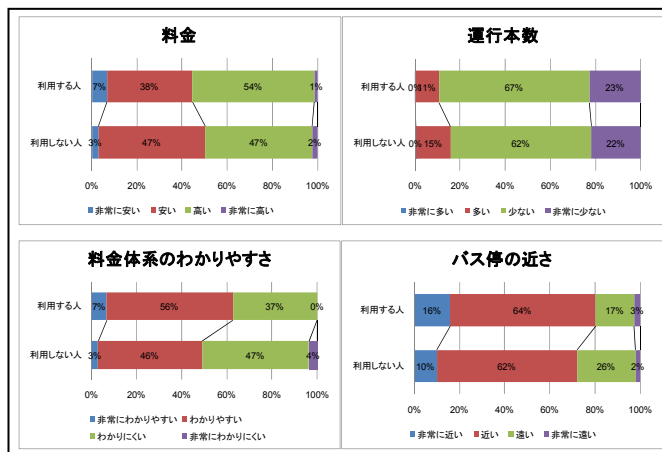


図4 バス利用属性からみたバスのイメージ

4. まとめ

身近な交通サービスを提供するバス交通には、路線バスや自治体がサービスするバスなどがあり、同じ駅勢圏であってもサービスの実態や住民の評価は大きく異なっている。バス交通に対する住民意識の実態をまとめると以下ようになる。

- ① 全体的にみてバス交通の利用は少ない。
- ② バス交通は、住民の要望には必ずしも対応していない。
- ③ 運行本数の増加や終発時間帯を遅らせることへの強い要望がある。
- ④ 年齢層や地域など属性の違いにより、バス交通の利用目的・利用状況・バス交通に対する住民の要望事項は異なっている。
- ⑤ きめ細かなサービスを提供しているコミュニティバスの運行は、バス交通に対するイメージの向上に大きく貢献している。
- ⑥ バス交通の潜在的な需要者である住民の多くは、バスに関する十分な情報を把握していない。
- ⑦ バスを利用する人とならない人ではバス交通に対するイメージに違いが生じている。

バス交通の悪循環を断ち切るためにも、これらバス交通への要望を実現していくとともに、潜在的な需要者開拓のための情報提供が重要になっている。

【謝辞】本研究は、兵庫県東播磨県民局からの受託研究「東播磨バスルート図作成に関する研究」（研究代表：大橋健一）の一環として行なわれたものであり、兵庫県交通政策課の登日氏、東播磨県民局の速水氏・伊保さんにお世話になった。記して謝意を表します。

【参考文献】 深田哲平・増本裕幸：明石工業高等専門学校 平成23年度卒業研究，明石工業高等専門学校，2012.3